

30 消防用設備等の活用状況

【関連章第8章】

事例1 「介護老人保健施設から出火し、スプリンクラー設備により消火に成功した火災」

出火時分 5月 4時ごろ
用途等 介護老人保健施設 耐火造 9/1 延5,700㎡
防火管理 該当選任あり 消防計画あり
被害状況 建物部分焼1棟 内壁、天井計2㎡等焼損
概要

この火災は、介護老人保健施設の洗濯室から出火し、内壁等を焼損したものです。出火原因は、ガス衣類乾燥機の天板上に掛布団を積んだ状態で使用したため、掛布団が熱せられ出火したものです。

自動火災報知設備が鳴動したため、勤務する看護師が確認に行くと、洗濯室は黒煙が充満しスプリンクラー設備が作動しているのを発見しました。火災を発見した看護師は、自動通報装置により消防機関に通報されると思っていたのですが、消防車が来ないことから同僚に119番通報を依頼し、依頼を受けた同僚が携帯電話で119番通報しています。

教訓等

この火災ではスプリンクラー設備が有効に作動したことで消火に成功して、延焼拡大を防いでいます。また、自動火災報知設備が鳴動したことで従業員が早期に火災に気付くことができました。

しかし、火災があった建物では、自動火災報知設備が鳴動した際に消防機関へ通報する自動通報装置の連動が切断されていたため、早期に消防機関への通報ができず、建物関係者がスプリンクラー設備の操作に熟知していなかったため、水損被害も発生しています。

建物管理者等は、設置されている消防用設備等を熟知し、火災により設備が作動した際には、火災の拡大を防ぐとともに、水損等の二次被害も最小限に止めなければなりません。自衛消防訓練等の機会を捉え、消防用設備等の設置状況や取扱い方法を周知しましょう。



写真 30-1 出火箇所付近の状況



写真 30-2 ガス衣類乾燥機の天板上の状況